

三朝温泉病院 リハビリ通信

発行日
平成30年7月20日
Vol 4
発行責任者：山根 隆治

◎認定理学療法士誕生◎

○認定理学療法士とは……

高い専門的臨床技能の維持、社会、職能面における理学療法の専門性(技術・スキル)を高めていくことを目的として日本理学療法士協会が卒後教育の一環として行っているものです。

新人教育プログラム修了者は7専門分野(基礎理学療法、神経理学療法、運動器理学療法、内部障害理学療法、生活環境支援理学療法、物理療法、教育・管理理学療法)のいずれかひとつ以上の専門分野に登録し、認定理学療法士を目指します。

上記の専門分野において、理学療法士技術と知識を有することが認められた者を認定理学療法士と呼びます。

日本理学療法士協会約12万名の会員数のうち認定理学療法士は4千名、鳥取県では33名となっています。(H29年度現在)

○運動器認定理学療法士 別所大樹

取得しようと思ったきっかけは自己研鑽のためでした。取得のための勉強をしていく中で改めて患者さんへと還元することができる内容があることに気付かされました。

運動器認定理学療法の対象は主に腰痛や関節症などの整形外科疾患です。院内のみならず地域でも運動器理学療法の対象となる方は多いので今回の知識を活かして更に深く、より積極的に理学療法が提供できればと思います。今後は当科でも認定理学療法士の取得を目指す人も出てくると思うので取得に向けての勉強会を開催する等、後進の育成にも力を入れていきたいです。今の自分に甘んずること無く、今後とも知識・技術共に更なる向上を求めて日々の臨床に取り組んでいきたいと思っています。

○代謝認定理学療法士 山口洋司

日ごろの成果を試すべく認定理学療法士を受験し、合格する事が出来ました。私の受験した分野は代謝という聞き慣れない分野ですが、主に糖尿病を主体とする理学療法に関する分野です。一般にリハビリと聞くと、整形外科や脳血管障害などの疾患を思い浮かべる方も多いと思います。実際に私たち理学療法士内でも糖尿病を対象とする分野はマイナーな分野です。このため、認定理学療法士で代謝部門での資格保持者は県内でも私を含めて2名しかいません。とても仲間の少ない分野で寂しい気もしますが、だからこそ先駆者となるべくやりがいのある分野だと感じています。大きすぎる目標ですが、いつかは院内や院外で“鳥取県の糖尿病理学療法と言えは山口”と言われる存在を目指して、努力を続けていきたいと考えています。



産後外来チームの活動紹介(番外編)

《産後外来以外の活動紹介》

月1～2回メンバー全員で産後外来にいられた方の症例検討会を行い、スタッフ間で情報交換・情報共有を図ります。また研修会に参加したスタッフの伝達講習や、職員の家族に協力してもらい評価・指導の向上に努めています。

その他院外では、三朝町が実施する6ヵ月健診、子育て支援センターでのウェルカムベイビークラスにも出向いています。
6ヵ月健診では産後のお母さんに対し身体評価・運動指導の他に抱っこひもの調整なども行っています。
ウェルカムベイビークラスでは年3回妊娠中期から後期の妊婦さんとその家族を対象に産前・産後ケアについて我々PTが指導しています。この7月からは月1回の頻度で子育て支援センターのねんねクラスにも出向き産褥体操や簡単なストレッチを指導していくことになりました。育児中のお母さんとのコミュニケーションを通じて産後の身体、セルフケアの理解を深めていきたいと考えています。

《活動していく上で困っている点》

まだまだ評価・指導に対して経験が浅く戸惑うスタッフも多い中、お母さんが抱える問題が解決出来ているか不安なこともあります。問題解決をその場で求められることもあり、知識・技術の向上が必須で勉強会を通じて知識を深めています。今年の8月からは当院の大丸利沙PT



＜ねんねクラスの様子＞

が講師を務め県内の病院からウィメンズヘルスに興味を持つPTが集っての研修会も当院で始めます。

またピラティスインストラクターの資格を有する船越PTも加入し心強い戦力となっています。

《メンバー》

【文責：平】

大丸利沙・平朱・藤岡佳子
松本観如・河本友紀
加藤瑞希・船越剛司
桶本早紀・河本つかさ

自動車学校との共同プロジェクト

【取り組み概要】

昨今急増している高齢者の自動車運転事故に高次脳機能障害が関与していると言われています。高次脳機能障害とは脳卒中などの後遺症として物事に集中できない、物の使い方がわからないなど症状が目に見えにくく複雑な為、その理解や判断が難しいと言われています。当院では、十数年前から脳卒中後の自動車運転再開を希望される患者さんに対し、鳥取県中央自動車学校と連携して評価を行い運転の如何を判断し支援を行っています。その需要は年々高まってきており、今年度から当院療法士で運転支援チームを発足させ、既存の評価内容の見直しを行うとともに評価のシステム化・自動車学校と共同で情報連携シートの作成し提供できる支援や評価の質向上を目的に取り組みをはじめました。

【今後の予定】

まず、病院内では経験の有無にかかわらず評価の質を担保する目的で「評価シート」の作成や支援プロセスについてシステム化を図っています。具体的には先行研究や他県の取り組みを参考に評価項目の統一や勉強会などの活動を行っています。

病院外では高次脳機能障害の障害特性の理解や双方の評価内容を共有することを目的に療法士と自動車学校の教官で意見交換や勉強会を開催しています。具体的には療法士から教官に病院内で実施する各種検査の紹介をし、教官から療法士へは教習所内で使用している機器の使用用途などについて情報交換を行っています。

【期待される効果】

自動車学校と共同で自動車運転評価をシステム化することで療法士間の評価能力格差をなくし、その人の残された能力を正しく評価することで運転再開後の事故防止に繋がるものと思われます。今後は運転再開が困難であった場合の代替えとなる移動手段や社会資源の活用などについても考えていく必要があると思います。【文責：中村】

《メンバー》 中村貴紀・松本周三・荒尾かず子・井尾政美
森田鉄二・武中由美子・増崎堅斗

ただ今、挑戦中

～ポジショニングセクター編～

○ポジショニングセクターとは？

褥瘡(床ずれ)や拘縮(関節が硬くなる)の予防、誤嚥予防(食事姿勢調整)、ベッド上や車いすでの安楽姿勢の提供などを目的に、適切で快適な姿勢を提供できるようクッション等の用具を用いて治療に介入する専門資格

○資格取得に挑戦しようと思ったきっかけ

高見: 以前勤めていた病院で褥瘡患者さんに関わることで多く、その経験を当院でも活かすことが出来るのではと思ったことがきっかけです。

團野: 以前担当した患者さんに適切なポジショニングが提供できているのか自分自身疑問に思うことがあり、その時にこの資格を知り挑戦しようと思いました。



○資格取得後の活動予定は？

高見: 理学療法士の養成校でも学ぶ機会が少ない分野ですので、まずはリハビリテーション科のスタッフに伝達し、そこから病棟スタッフの皆さんにまで広げていければと考えています。最終的に患者さんに還元していけるよう努力していきます。

團野: この勉強を進めていくうちに、患者さんに適切なポジショニングを提供するためには他職種との連携が不可欠であると強く感じるようになりました。故にリハビリスタッフだけでなく、病棟スタッフとも知識の共有が図れるよう学んだことを伝えていければと考えています。

高見浩和・團野恵未

Q 選ばれる病院・選ばれるリハ科になる為に必要な要素は何？

A 医療機関は数々ある中、私は選ばれる病院・リハ科になるために譲れないポイントが5つあると考えます。

①知識・技術において高い専門性があること

②強い絆のもと、組織として強靱であること

③地域と患者さんの生活を支える責任感

④医療人である前に人として謙虚な姿勢

⑤激動の時代に柔軟に対応できるしなやかさの5つです。

私はこれらのポイントを最重要項目とし、主任として科内に浸透させていきたいと考えています。その先には頼れる、そして愛される三朝温泉病院があると考えています。強くしなやかに結果のだせる責任集団となれるよう一日一日確実に前に進んでいきたいと思っています。



A 両活動とも若手育成のチャンスと捉えチームを作り牽引しています。活動する中で若手の不安な表情や悩む姿は彼らを成長させ、充実感のある表情や果敢に挑戦する姿はリハ科全体の底上げとなり、最終的に患者さんに良質な医療が提供できると考えています。まずは事業を軌道にのせ、いずれは部下に任せ、そして若いスタッフの様々な想いを形にすべく、病院の方針と現場の想いを繋ぐ懸け橋になればと思っています。

Q リハ科主任という立場と併せて、ロボットリハビリチーム・腰痛・ドックチームのリーダーとして精力的に活動している理由は？

シリーズ
『想いを聞く』

予備自衛官補翔馬がゆく



The 取り組み紹介

『温泉病院 畑プロジェクト』

【目的・意義】

当院の入院患者さんの多くは、農業従事者であるにもかかわらず入院中に実際に農作業を評価することは難しく、実際に退院後作業ができるかどうか模倣的な動きの確認が精一杯でした。

また作業療法に農作業を取り入れる意義としては、農業従事者に限らず、農業未経験の人でも身体を動かすという身体的な活動だけでなく、精神的なリハビリ(楽しみ・意欲向上・対人交流)にもなり、離床を促すことで生活の基本機能維持・改善にも繋がります。そして季節を感じる外気浴としての効果も期待できます。

【今後の抱負】

まだ始めたばかりで何とも言えませんが、まずは利用したいときに誰でも使用できるように草取りなどの環境整備を定期的に行うことに併せて、四季折々の野菜や花などが栽培できるように環境を整え、作業療法部門全体で使える畑にしていきたいことが私の責任だと考えています。また病棟などとコラボした企画も考えていければとも思っています。その他車いすに乗ったままでも畑作業に参加できるような環境整備や、自分で育てた野菜を収穫し調理するといった一連の作業を行えるようにしていきたいと思っています。究極の目標としては患者さんが作った野菜の販売まで出来たらと思っていますが、

まずは、欲張らず農作業を通じて障がいがあってもその人らしく『いきがい』をもって生活していただけるようサポートしていきたいと思っています。 [文責:宮脇]

《メンバー》

宮脇大介・三浦純・増崎堅斗
平 朱・松本生・齋藤悦代



○予備自衛官とは・・・

防衛招集命令・国民保護などの招集命令及び災害招集命令を受けて自衛官となり、第一線の部隊が出動した後の駐屯地の警備・後方支援・第一線部隊の補充など避難住民の救護・誘導など災害救助活動の任務にあたります。通常は民間人としてそれぞれの職業に従事しながら1年で5日間訓練に参加します。有事の際に招集がかかり災害地などで地域社会貢献活動を行います。

○予備自衛官補取得のきっかけ

きっかけは上司からの勧めもありましたが、自分自身2年前におきた鳥取中部地震の際に、医療人でありながら現場で地域の方々に災害救護活動が出来なかったことを悔やんでいました。テレビで自衛隊の方々の活動を見て、予備自衛官になれば今の仕事をしながらでも、災害など有事の際に自分も何か貢献できるのではないかと思い受験しました。

○今後どのような活動をしていきたいか

災害時に求められるリハビリテーション(理学療法)の役割としては、
①それまでにその方々が行ってきたリハビリ医療を守ること
②避難所などでの不動による廃用症候群を予防すること
③新たに生じた各種障害へ対応すること
④異なった生活環境での機能低下に対する支援
などが考えられます。自分が出動するような事態が起きないことが理想ですが、もしもの時は理学療法士として、そして予備自衛官補として、また三朝温泉病院の一員として社会に貢献したいと思っています。
『すべては被災者のために』を合言葉に微力ではありますが頑張ります。

理学療法士 河本 翔馬

<編集後記>

何十年に一度と言われるような大雨や暑さに加え、いつ起こるかわからない地震などを経験するたびに何の変哲もない平穏な毎日こそが幸せなんだと痛感する今日この頃です。今年も半分終わりました。医療情勢はめまぐるしく変わりますが、せめて日常は平穏な毎日が続いてほしいものです。 文責:山根